

森づくりサポーターニュース

平成24年(2012)9月10日発行

びわこ地球市民の森(森づくりセンター)

〒524-0101 守山市今浜町3089 TEL 077-585-6333 FAX 077-585-6312
メールアドレス moridukuri@ex.biwa.ne.jp URL <http://www.ex.biwa.ne.jp/~moridukuri/>

夏のサポーター活動

2012年7月21日(土) 第2回サポーター活動がびわこ地球市民の森「里の森ゾーン」にて実施されました。猛暑が心配されましたが当日は曇り空のもと、サポーター 34名とガールスカウト21名の参加がありました。

今まではつる切りや下草刈り中心の作業をしていただいていたのですが、今回は「里の森ゾーン」で間伐・枝落としの作業をしていただきました。「里の森ゾーン」では、ここ数年で木々の成長がめざましくなり、密集したエリアがたくさんあります。適切な間伐により、日差しが十分地面に届くようになり、生命力の強い森に育ちます。作業途中に降り出した雨にもかかわらず、サポーターの皆さんの手際良い作業で森の中がぐんと明るくなりました！

ガールスカウトの皆さんは、中村寛先生から『つる植物のなぞ』についてお話していただき、「木の皮をはい登る植物」や「つる植物の利用」などパワーポイントを使ってビンゴ形式で楽しく学びました。その後、森の間伐材を使ってネックレスなどのアクセサリや木のオブジェをみんなで作りました。残念ながら恒例のスイカ割は雨で中止になりましたが作業を終えて皆で甘いスイカをいただきました。ご参加ありがとうございました。



力仕事ですが手際良く作業が進んでいきます



間伐による樹林密度の調整により健全な生長を促進します



ヘチマの緑のカーテンのお話も教わりました



頑張っているいろいろな作品が完成しました！



2007年頃の里の森ゾーン

2012年現在の里の森ゾーンの様子

今回のサポーター活動が行われた「里の森ゾーン」は、2007年から造成事業が始まり、2008年の秋から植樹活動がスタートしました。面積は12.9haと他のゾーンより広く、植樹帯の巾も一番広いゾーンです。「里の森ゾーン」(森の環境学習フィールド)は、四季の花や緑・木の実のある森の観察フィールドです。このゾーンの植樹本数は2012年現在64,096本となり、もうすぐ秋の植樹活動も始まります。また、「出会いのゾーン」と結ぶ橋梁もかかり、公衆トイレや休憩施設・駐車場などの整備も着々と進んでいます。

開設面積5.8haに加え今回開設面積6.5haがプラスされ、現在供用開始面積は12.3haとなっています。このゾーンが完成すると「つどいのゾーン」から「出会いのゾーン」まで約2.5kmの一連の森となり、「ふれあいゾーン」とあわせて森の中心部となります。まだもう少し年月はかかりますが、四季の花木や木の実がなり、水辺の生き物とも触れ合える豊かな森づくりを目指していきます。

皆さんに植樹していただいた苗木の管理は、植えてから3～4年は苗木の下草刈り・除草中心の作業ですが、その後は成長とともに枝と枝が絡み合ってくるため適宜枝落としや間伐が必要となります。今後ともサポーターの皆さん・ボランティアの皆さんの育樹活動のご協力をよろしくお願いいたします。





「2012年のつどい」で植樹していただいたエリア



多くの企業の皆さんにも息の長い育樹活動に毎年ご協力をいただいています



樹木の名前 豆知識シリーズ

その8

【山茶花】

今回は「山茶花」（さざんか）のお話です。

「山茶花」は、ツバキ科のサザンカ属を代表する常緑の小高木です。古くからいろいろな別名がありました。山椿^{やまつばき}、姫椿^{ひめつばき}、小椿^{こつばき}、山茶^{さんちゃ}、茶梅^{ちゃばい}、清貴^{せいき}等です。実からとれる油は食用や頭髮油、塗料などにも利用されてきました。晩秋から初冬まで花期が続くので花の少ない冬季には一般の庭や垣根、木立に彩りを添えてくれます。九州が自生地、そのほとんどは白花ですが、改良された園芸種も多く、桃色・赤色のものもたくさんあります。同じ科の「椿」（つばき）は落花するときに、ひとつひとつの花毎に落ちるため、昔は「首毎落ちる」といって一般の家庭（特に武家の屋敷）では忌み嫌われたのですが、花びらがひらひらと一枚一枚離れ落ちていく山茶花は一般の家庭でも垣根などによく使われてきました。

ところで、かつては「もの」はわからなくても、「さくら」や「タンポポ」「チューリップ」と同じように、幼稚園児でも花の名前を知っていたのが「さざんか」でした。そう、「かきねの かきねの まがりかど……」で始まる異 聖歌（たつみ せいか）作の童謡「たき火」の二番目にある「さざんか さざんか さいた道、たき火だ、たき火だ、落葉たき……」と山茶花の咲いた街角のちょっとした風情の歌を幼稚園児も知っていた時代がありました。が、最近は消防法の関係でしょうか、勝手に「たき火」ができない時代となって、聞くとところによると、幼稚園でも歌われなくなったようです。

さて、中国では「山茶」は「椿」のことをいうそうです。日本でその漢名が間違っただけで定着したと言われています。どこかで椿とサザンカが混同されたのでしょうか、一度定着したら軌道修正はなかなか難しいようです。

ところで、「茶」は「喫茶店」や「茶道」、「小林一茶」などで「サ」とも読まれているので「山茶花」は本来「さん さ か」と読まれるべき字なのです。その漢読の「サンサカ」（山茶花）が→ササンカ（茶山花）と首位転換し→サザンカと音韻変化したとの説が有力です。

その山茶花は、日本が原産地で、18世紀の江戸時代に長崎の出島のオランダ商館に来ていたスウェーデンの植物学者・医師のカール・ツンベルクさんがヨーロッパに持ち帰り、その後19世紀になって西欧でも広まりました。そのためでしょうか、「山茶花」の学名は、ツバキ科のCamellia sasanqua（カメリア・ササンクワ）で、英語でもSasanquaですので、樹木の名前で日本語が学名、英語ともそのまま表記されている数少ない例となりました。

次回は「薔薇」（ばら）のお話をします。

（文責：柳田英俊）



山茶花

お知らせ

第3回森づくりサポーター活動

実施期日 平成**24**年**10**月**14**日(日)

活動内容 間伐・枝落とし、自然教室

その他 当日は、森の横で今浜自治会の「コスモス祭り」が開催され、サポーターの皆さんも参加していただきます。

2012. 8末現在

植栽面積	73,483㎡
参加者数	41,891人
植栽本数	146,352本
つどいのゾーン	23,639本
ふれあいゾーン	37,459本
出会いのゾーン	21,158本
里の森ゾーン	64,096本

編集後記

昨年に引き続き、今年も酷暑の夏でしたが、サポーターの皆さん、お変わりありませんか。さて、森では「里の森ゾーン」で今後の森の活動拠点となる「(仮称) 森づくり協働活動センター」の新築工事が来年3月竣工を目指して始まりました。センターの詳細については、今後サポーターニュース等でお知らせします。